

令和7年度決算報告書

自 令和7年4月1日
至 令和8年3月31日

公益財団法人 日本防災通信協会

貸 借 対 照 表
令和8年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	144,517	59,482	85,035
諸預金	27,160,703	42,345,132	△ 15,184,429
未収金	248,507,377	242,976,167	5,531,210
前払費用	1,609,506	1,580,837	28,669
貯蔵品	2,362,088	2,446,346	△ 84,258
流動資産合計	279,784,191	289,407,964	△ 9,623,773
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
運用財産預金	61,728,590	31,728,590	30,000,000
運用財産有価証券	670,074,280	813,684,330	△ 143,610,050
特定資産合計	731,802,870	845,412,920	△ 113,610,050
(2) その他固定資産			
建物附属設備	183,148	228,980	△ 45,832
什器備品	3,946,171	5,066,436	△ 1,120,265
ソフトウェア	1,930,501	2,982,768	△ 1,052,267
電話加入権	51	51	0
差入保証金	11,729,600	11,729,600	0
その他固定資産合計	17,789,471	20,007,835	△ 2,218,364
固定資産合計	749,592,341	865,420,755	△ 115,828,414
資産合計	1,029,376,532	1,154,828,719	△ 125,452,187
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	41,910,075	44,093,709	△ 2,183,634
前受金	8,800	14,520	△ 5,720
未払法人税等	402,000	402,000	0
未払消費税	14,305,400	9,638,900	4,666,500
預り金	4,244,156	4,280,750	△ 36,594
賞与引当金	39,901,952	39,567,897	334,055
流動負債合計	100,772,383	97,997,776	2,774,607
2. 固定負債			
退職給付引当金	64,206,001	64,701,216	△ 495,215
固定負債合計	64,206,001	64,701,216	△ 495,215
負債合計	164,978,384	162,698,992	2,279,392
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	864,398,148	992,129,727	△ 127,731,579
(うち特定資産への充当額)	(731,802,870)	(845,412,920)	△ (113,610,050)
正味財産合計	864,398,148	992,129,727	△ 127,731,579
負債及び正味財産合計	1,029,376,532	1,154,828,719	△ 125,452,187

貸借対照表内訳表

令和8年3月31日現在

(単位:円)

科目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合計
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金		144,517		144,517
諸預金	16,471,802	10,688,901		27,160,703
未収金	248,507,377			248,507,377
会計間振替勘定		120,580,080	△ 120,580,080	0
前払費用		1,609,506		1,609,506
貯蔵品	2,362,088			2,362,088
流動資産合計	267,341,267	133,023,004	△ 120,580,080	279,784,191
2. 固定資産				
(1) 特定資産				
運用財産預金		61,728,590		61,728,590
運用財産有価証券		670,074,280		670,074,280
特定資産合計		731,802,870		731,802,870
(2) その他固定資産				
建物附属設備	179,301	3,847		183,148
什器備品	3,863,301	82,870		3,946,171
ソフトウェア	1,889,960	40,541		1,930,501
電話加入権	50	1		51
差入保証金	11,483,279	246,321		11,729,600
その他固定資産合計	17,415,891	373,580		17,789,471
固定資産合計	17,415,891	732,176,450		749,592,341
資産合計	284,757,158	865,199,454	△ 120,580,080	1,029,376,532
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	9,330,034	32,580,041		41,910,075
前受金	8,800			8,800
会計間振替勘定	120,580,080		△ 120,580,080	0
未払法人税等	402,000			402,000
未払消費税	14,305,400			14,305,400
預り金		4,244,156		4,244,156
賞与引当金		39,901,952		39,901,952
流動負債合計	144,626,314	76,726,149	△ 120,580,080	100,772,383
2. 固定負債				
退職給付引当金	63,563,941	642,060		64,206,001
固定負債合計	63,563,941	642,060		64,206,001
負債合計	208,190,255	77,368,209	△ 120,580,080	164,978,384
III 正味財産の部				
1. 一般正味財産	76,566,903	787,831,245		864,398,148
(うち特定資産への充当額)		(731,802,870)		(731,802,870)
正味財産合計	76,566,903	787,831,245		864,398,148
負債及び正味財産合計	284,757,158	865,199,454	△ 120,580,080	1,029,376,532

正味財産増減計算書

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①特定資産運用益	13,405,312	12,786,607	618,705
運用財産受取利息	13,405,312	12,786,607	618,705
②事業収益	882,864,453	869,255,467	13,608,986
運用指導収益	753,291,853	741,722,067	11,569,786
保守指導収益	113,898,600	114,326,800	△ 428,200
通報装置普及収益	15,674,000	13,206,600	2,467,400
③雑収益	740,871	476,704	264,167
受取利息	141,943	47,243	94,700
雑収益	598,928	429,461	169,467
経常収益計	897,010,636	882,518,778	14,491,858
(2) 経常費用			
①事業費	902,308,377	926,039,472	△ 23,731,095
役員等報酬	57,657,851	55,740,159	1,917,692
給料手当	487,246,961	496,497,948	△ 9,250,987
退職給付費用	29,180,226	29,227,005	△ 46,779
福利厚生費	93,550,716	95,790,257	△ 2,239,541
賞与引当金繰入額	39,502,932	39,172,218	330,714
運用指導費	30,479,077	29,902,862	576,215
機関紙発行費	23,348,930	24,100,247	△ 751,317
広報費	7,341,106	16,467,073	△ 9,125,967
システム関係費	5,171,870	4,340,205	831,665
会議費	3,393,207	3,989,340	△ 596,133
旅費交通費	80,337,133	82,280,396	△ 1,943,263
通信運搬費	2,826,314	4,155,943	△ 1,329,629
減価償却費	4,027,671	6,131,779	△ 2,104,108
什器備品費	1,101,620	327,669	773,951
消耗品費	1,676,625	2,693,151	△ 1,016,526
印刷図書費	4,472,003	4,500,520	△ 28,517
賃借料	17,129,362	17,542,496	△ 413,134
事務所費	10,558,530	9,923,467	635,063
渉外費	18,360	44,065	△ 25,705
諸謝金	1,772,642	1,974,313	△ 201,671
租税公課	503,388	374,553	128,835
支払利息	193,553	34,664	158,889
雑費	818,300	829,142	△ 10,842

科目	当年度	前年度	増減
② 管理費	13,636,793	15,609,450	△ 1,972,657
役員等報酬	5,281,942	7,102,086	△ 1,820,144
給料手当	4,921,687	5,015,131	△ 93,444
退職給付費用	294,750	295,223	△ 473
福利厚生費	944,957	967,579	△ 22,622
賞与引当金繰入額	399,020	395,679	3,341
システム関係費	52,242	43,841	8,401
会議費	34,275	40,297	△ 6,022
旅費交通費	647,881	663,552	△ 15,671
通信運搬費	28,549	41,980	△ 13,431
減価償却費	40,684	61,938	△ 21,254
什器備品費	11,128	3,310	7,818
消耗品費	16,936	27,204	△ 10,268
印刷図書費	45,172	45,460	△ 288
賃借料	493,439	505,340	△ 11,901
事務所費	394,302	370,586	23,716
渉外費	186	446	△ 260
諸謝金	17,906	19,943	△ 2,037
租税公課	1,515	1,128	387
支払利息	1,956	351	1,605
雑費	8,266	8,376	△ 110
経常費用計	915,945,170	941,648,922	△ 25,703,752
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 18,934,534	△ 59,130,144	40,195,610
運用財産評価損益	△ 108,395,036	△ 84,052,278	△ 24,342,758
評価損益等計	△ 108,395,036	△ 84,052,278	△ 24,342,758
当期経常増減額	△ 127,329,570	△ 143,182,422	15,852,852
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
什器備品除却損	9	5	4
経常外費用計	9	5	4
当期経常外増減額	△ 9	△ 5	△ 4
税引前一般正味財産増減額	△ 127,329,579	△ 143,182,427	15,852,848
法人税・住民税及び事業税	402,000	402,000	0
当期一般正味財産増減額	△ 127,731,579	△ 143,584,427	15,852,848
一般正味財産期首残高	992,129,727	1,135,714,154	△ 143,584,427
一般正味財産期末残高	864,398,148	992,129,727	△ 127,731,579
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	864,398,148	992,129,727	△ 127,731,579

正味財産増減計算書内訳表

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

(単位:円)

科目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 特定資産運用益		13,405,312		13,405,312
運用財産受取利息		13,405,312		13,405,312
② 事業収益	882,864,453			882,864,453
運用指導収益	753,291,853			753,291,853
保守指導収益	113,898,600			113,898,600
通報装置普及収益	15,674,000			15,674,000
③ 雑収益	740,871			740,871
受取利息	141,943			141,943
雑収益	598,928			598,928
経常収益計	883,605,324	13,405,312		897,010,636
(2) 経常費用				
① 事業費	902,308,377			902,308,377
役員等報酬	57,657,851			57,657,851
給料手当	487,246,961			487,246,961
退職給付費用	29,180,226			29,180,226
福利厚生費	93,550,716			93,550,716
賞与引当金繰入額	39,502,932			39,502,932
運用指導費	30,479,077			30,479,077
機関誌発行費	23,348,930			23,348,930
広報費	7,341,106			7,341,106
システム関係費	5,171,870			5,171,870
会議費	3,393,207			3,393,207
旅費交通費	80,337,133			80,337,133
通信運搬費	2,826,314			2,826,314
減価償却費	4,027,671			4,027,671
什器備品費	1,101,620			1,101,620
消耗品費	1,676,625			1,676,625
印刷図書費	4,472,003			4,472,003
賃借料	17,129,362			17,129,362
事務所費	10,558,530			10,558,530
渉外費	18,360			18,360
諸謝金	1,772,642			1,772,642
租税公課	503,388			503,388
支払利息	193,553			193,553
雑費	818,300			818,300

	公益目的事業会計	法人会計	内部取引	合計
② 管理費		13,636,793		13,636,793
役員等報酬		5,281,942		5,281,942
給料手当		4,921,687		4,921,687
退職給付費用		294,750		294,750
福利厚生費		944,957		944,957
賞与引当金繰入額		399,020		399,020
システム関係費		52,242		52,242
会議費		34,275		34,275
旅費交通費		647,881		647,881
通信運搬費		28,549		28,549
減価償却費		40,684		40,684
什器備品費		11,128		11,128
消耗品費		16,936		16,936
印刷図書費		45,172		45,172
賃借料		493,439		493,439
事務所費		394,302		394,302
渉外費		186		186
諸謝金		17,906		17,906
租税公課		1,515		1,515
支払利息		1,956		1,956
雑費		8,266		8,266
経常費用計	902,308,377	13,636,793		915,945,170
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 18,703,053	△ 231,481		△ 18,934,534
運用財産評価損益		△ 108,395,036		△ 108,395,036
評価損益等計		△ 108,395,036		△ 108,395,036
当期経常増減額	△ 18,703,053	△ 108,626,517	0	△ 127,329,570
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0		0
(2) 経常外費用				
什器備品除却損	9	0		9
経常外費用計	9	0		9
当期経常外増減額	△ 9	△ 0		△ 9
税引前当期一般正味財産増減額	△ 18,703,062	△ 108,626,517		△ 127,329,579
法人税、住民税及び事業税	402,000			402,000
当期一般正味財産増減額	△ 19,105,062	△ 108,626,517		△ 127,731,579
一般正味財産期首残高	95,671,965	896,457,762		992,129,727
一般正味財産期末残高	76,566,903	787,831,245		864,398,148
Ⅱ 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0		0
指定正味財産期首残高	0	0		0
指定正味財産期末残高	0	0		0
Ⅲ 正味財産期末残高	76,566,903	787,831,245		864,398,148

財 産 目 録
令和8年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
(流動資産)	現金	手元保管	運転資金として	144,517
	諸預金	普通預金	運転資金として	27,160,703
		みずほ銀行麹町支店		10,688,901
		支部現金等みずほ銀行ほか		16,471,802
	未収金	当年度収益の未収金分		248,507,377
		テルウェル東日本(株)ほか	運用指導に係る未収金	215,520,497
		"	保守指導に係る未収金	30,529,620
		"	非常通報装置普及に係る未収金	2,438,480
		テルウェル西日本(株)ほか	防災通信有償分等に係る未収金	18,780
	前払費用	当年度に支出した次年度費用		1,609,506
		大星ビル管理(株)ほか	管理的業務に係る前払費用	1,609,506
(流動資産)	貯蔵品	当年度期末棚卸高		2,362,088
		防犯DVD	公益目的事業に係る貯蔵品	1,969,425
		パンフレットほか	公益目的事業に係る貯蔵品	392,663
流動資産合計				279,784,191
(固定資産)				
特 定 資 産				731,802,870
	普通預金	みずほ銀行麹町支店	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	1,728,590
	定期預金	みずほ銀行麹町支店	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	60,000,000
	有価証券	野村證券株式会社	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	362,242,280
		(利付国債144回ほか)		
		SMBC日興証券株式会社	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	210,657,000
		(利付国債177回ほか)		
		大和証券株式会社	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	36,065,000
		(利付国債180回)		
		みずほ証券	管理的業務を賄うための運用目的の特定資産	61,110,000
		(第7回愛知県公募公債)		
その他固定資産				17,789,471
	建物附属設備	間仕切り工事	公益目的事業(97.9%)及び管理的業務(2.1%)で使用	183,148
	什器備品	会議室テーブル・応接セットほか	公益目的事業(97.9%)及び管理的業務(2.1%)で使用	3,946,171
	ソフトウェア	PCA公益法人会計更新	公益目的事業(97.9%)及び管理的業務(2.1%)で使用	1,930,501
	電話加入権	本部5回線、支部46回線	公益目的事業(97.9%)及び管理的業務(2.1%)で使用	51
	差入保証金	千代田区麹町2丁目14番2ほか 麹町NKEビルに対する保証金ほか	公益目的事業(97.9%)及び管理的業務(2.1%)で使用	11,729,600
固定資産合計				749,592,341
資産合計				1,029,376,532

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動負債)	未払金	当年度経費の未払分		<u>41,910,075</u>
		福山印刷株式会社ほか	公益目的事業に係る未払金	9,330,034
		佐川急便株式会社ほか	管理的業務に係る未払金	32,580,041
	前受金	次年度の収益前受		
		社会福祉法人おひさまと月の里	運用指導等に係る前受金	<u>8,800</u>
	未払法人税等		公益目的事業に係る均等割	<u>402,000</u>
	未払消費税	麴町税務署	公益目的事業及び管理的業務に係る確定消費税	<u>14,305,400</u>
	預り金	役職員からの預り金	公益目的事業及び管理的業務に従事する役職員の源泉所得税・住民税等	<u>4,244,156</u>
	賞与引当金		公益目的事業及び管理的業務に従事する職員の賞与に係る引当金	<u>39,901,952</u>
流動負債合計				100,772,383
(固定負債)	退職給付引当金	役職員に対するもの	公益目的事業及び管理業務に従事する役職員の退職金	<u>64,206,001</u>
固定負債合計				64,206,001
負債合計				164,978,384
正味財産				1,029,376,532

附 属 明 細 書

1. 運用財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記2に記載しております。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科 目	期 首 残 高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞 与 引 当 金	39,567,897	39,901,952	39,567,897		39,901,952
退職給付引当金	64,701,216	29,474,976	29,970,191		64,206,001

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

「公益法人会計基準」(平成20年4月11日、平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会)を採用している。

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券並びに子会社株式及び関連会社株式以外の有価証券

① 時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法を採用している。

② 時価のないもの

移動平均法による原価法を採用している。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入による原価法を採用している。

(3) 固定資産の減価償却

① 有形固定資産

定率法を採用している。

② 無形固定資産

定額法を採用している。

③ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用している。

(4) 賞与引当金の計上基準

職員に対する賞与の支給に備え、賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上している。

(5) 退職給付引当金の計上基準

役員、職員の退職金の支給に備えるために、自己都合退職による期末要支給額の全額を計上している。

(6) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外の重要性の乏しいファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借処理に係る方法に準じた会計処理によっている。

(7) 消費税等の会計処理

税抜方式によっている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
運 用 財 産 預 金	31,728,590	30,000,000		61,728,590
運 用 財 産 有 価 証 券	813,684,330	84,396,400	228,006,450	670,074,280
合 計	845,412,920	114,396,400	228,006,450	731,802,870

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳はつぎのとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
運 用 財 産 預 金	61,728,590		(61,728,590)	
運 用 財 産 有 価 証 券	670,074,280		(670,074,280)	
合 計	731,802,870	0	(731,802,870)	

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物 附 属 設 備	2,515,000	2,331,852	183,148
什 器 備 品	19,913,182	15,967,011	3,946,171
ソ フ ト ウ ェ ア	5,378,000	3,447,499	1,930,501
合 計	27,806,182	21,746,362	6,059,820

5. 担保に供している資産

運用財産定期預金 60,000,000円は、短期借入金の担保に供している。

6. 関連当事者との取引の内容

該当する取引はない。

独立監査人の監査報告書

令和8年5月25日

公益財団法人 日本防災通信協会
理 事 会 御 中

監査法人 不二会計事務所

東京都台東区

代 表 社 員
業務執行社員 公認会計士

水谷 章

<財務諸表等監査>

監査意見

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づく監査に準じて、公益財団法人日本防災通信協会の令和7年4月1日から令和8年3月31日までの令和7年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドライン第5章第2節第1(2)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書並びに財産目録のうち意見の対象とされていない部分である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

<財産目録に対する意見>

財産目録に対する監査意見

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づく監査に準じて、公益財団法人日本防災通信協会の令和8年3月31日現在の令和7年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人与当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監 査 報 告

公益財団法人 日本防災通信協会

理事長 山 田 知 裕 殿

私ども監事は、令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日までの令和 7 年度における会計及び業務の監査を行い、その結果を次のとおり報告する。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、公認会計士から監査の手続き及び監査結果等について説明を求めるとともに、帳簿並びに関係書類の閲覧、調査を行い、当該事業年度における計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他会議に出席し、理事からの業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧等、必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査の結果

- (1) 公認会計士である監査法人不二会計事務所の監査の方法及び監査の結果は妥当である。
- (2) 事業報告の内容は法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。
- (3) 理事の職務執行について、法令もしくは定款に照らし違反する事実は認められない。

令和 8 年 5 月 26 日

公益財団法人 日本防災通信協会

監事 出 原 健 三



監事 西 村 真

